

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 30 年 6 月 14 日現在

機関番号：82111

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K18754

研究課題名(和文) 移住者を含めた若年農村女性の起業・継業を通じたエンパワメントに関する実証的研究

研究課題名(英文) An Empirical Study on Empowerment through Entrepreneurship and Succession by Young Rural Women

研究代表者

澤野 久美 (SAWANO, Kumi)

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構・中央農業研究センター・研究員

研究者番号：10445851

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、若年層の農村女性による起業やその継承を、個人、組織、地域という3つの視点から実証的に分析を行った。その際、若年層の農村女性に移住者も含めて検討した。その結果、農業女子プロジェクトへの参加を通じて、若年層農村女性が6次産業化への意欲や関心を強めていること、活動を継続・継承したことで、地域への貢献意欲が醸成されたこと、若年層農村女性の育成の初期段階では、同世代との交流が不可欠であり、普及組織の支援が重要であること等が明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This research analyzed empirically the entrepreneurship and succession by young rural women from three perspectives of individuals, organizations, and rural area. As a result, the following points were clarified. (1) Through participation in the "agricultural girls' project", young rural women are strengthening their motivation and interest in the "sixth industrialization", (2) the willingness to contribute to the rural area has been fostered by continuing and inheriting activities, (3) In the early stages of fostering young rural women, it is essential to interact with women of the same generation, and support of extension services is important.

研究分野：農業経済学、農村社会学

キーワード：若年層農村女性、農村女性起業、女性農業者、農業女子プロジェクト、地域貢献、キャリア、ネットワーク、6次産業化

## 1. 研究開始当初の背景

近年の農村の活性化策として最も注目を浴びているのは、農業の「6次産業化」である。農村女性起業は、1970年代以降の農産物自給運動がその起源であり、地域資源を有効に活用しながら現在まで取り組んでいる。すなわち、農村女性起業やその担い手の農村女性は、6次産業化の牽引役であるといっても過言ではない。

現在、農村女性起業は、全国で約10,000件を数えている。農村女性起業が活動当初目的としていた女性自身の課題解決や自立というだけではなく、社会的諸課題の解決や地域貢献に根ざした活動を行う、すなわち、「社会的企業」と呼べるような活動を担う事例が徐々にではあるが見られるようになってきた(西山2012、澤野2012)。

その一方、近年、農村女性起業の課題として、高齢化・世代交代が指摘されている。また依然として、農村女性起業の約6割は、年間の売り上げが300万円未満である。農村女性起業は、経済的に一定程度収入源とならなければ、女性の自己実現を果たすことさえも難しく、活動としての継続性も危ぶまれる(澤野2012、澤野2014)。女性のエンパワメントの観点からみても、農村女性の社会参画などに女性起業が大きく寄与していることから、これらの起業活動の継続性については十分に議論されなければならない。

しかし、そもそも、今後の農村女性起業や地域農業等の担い手として想定されている若い女性の農業離れ(市田2011)が深刻化していることから、若年の農村女性を対象とした研究が重要になってきているが、研究としてはほとんど取り組まれていないのが実態である。

また、農村女性起業の先進的あるいは成功事例といわれる高年層の女性起業活動の背景には、行政等の強力な支援や指導があった。しかし、大内・原(2012)等でも指摘される通り、女性の場合、世代によって、ライフコースや農業との関わり方、普及制度のあり方が大きく異なっていると考えられる。

## 2. 研究の目的

上記のような学術的背景に加えて、小田切(2014)等が指摘するように、近年、田園回帰の動きがみられるようになってきており、そこでは、30代女性の農村への移住という新しい動きも見られるようになってきている。

そこで、移住女性も含めて、若年層の農村女性を捉えることとし、若年層の農村女性による起業活動等の取り組みを、個人、起業組織、地域という3つの視点から実証的に分析する。起業や継承の実態やそこでの課題、地域へのインパクト、若年農村女性へのエンパワメント等を解明する。

## 3. 研究の方法

本研究では、起業等をしている若年層農村女性本人の起業活動等に対する意識、起業組織の経済的・経営的分析、地域への影響等を、現地調査から明らかにする。

## 4. 研究成果

実態調査から以下のような知見を得ることができた。

(1)若年層農村女性による起業や起業に関する経営継承

若年層女性は、国あるいは都道府県で実施している農業女子プロジェクトへの参加を通じて6次産業化への意欲や関心を一層強め、それを契機として起業しているケースも見られた。若年層女性のネットワーク構築等にも農業女子プロジェクト等の活動が寄与している。また、行政側から、それらの活動に参加している女性農業者に対して、6次産業化等に関するプロジェクトへの参加依頼等も見られるようになっており、社会参画を促進する契機となっている。

起業希望があるにも関わらず、起業できていない若年層女性に対して、農業経営の状況やワークライフバランスなどに関するヒアリング調査を実施した。その結果、子育ての状況や、農業経営の展開状況を鑑みて、起業することが困難であること等を把握した。この点は、高年層世代が起業する際にも問題になっていた点とも共通しており、依然として、女性が起業する上での課題として残されていることが明らかとなった。

農産加工に取り組む農村女性起業における加工技術等の継承については、高年層の世代は、生活改善グループの活動などを通じて技術・技能習得を果たしていたが、現在は、後継世代に向けて、それぞれの農産加工品に関する加工技術のマニュアルを作成しながら、加工技術の指導を行い、後継世代に技術を継承しようと試みていた。ただし、参加者の確保は難航しており、組織として、雇用に向けた体制の強化、見直し・改善等を図る必要があること等が明らかとなった。

親と共に農家民宿を開始した事例では、数年前に経営継承が行われており、そのプロセスとともに、現在では、高齢者福祉に関わる取り組みにまで展開しようとしていることが調査から確認できた。当事例では、現在の民宿経営主は、開業当初は地域への貢献は考えておらず、首都圏向けの対応やインバウンドといった、主に地域外に対して意識が向いていたが、農家民宿経営を継続していくうちに、地域の維持・活性化や地域住民の生きがいづくり等に関する意識を持つようになり、同様の意識を持つ地域内の人物とのネットワークが構築され、地域に対する貢献意欲も醸成されていったこと等が明らかとなった。

(2)家族農業経営における女性の役割や意識

起業に取り組む若年層女性に関する研究との比較で、農業生産に関わる女性の意識やキャリア形成を分析することが重要であることから、家族農業経営における女性の役割や意識について検討した。女性農業者のライフヒストリー、農業や農業経験等の獲得方法、農業経営内部での女性の役割を見ながら、若年層女性農業者のキャリア形成プロセスの実態を把握した。その結果、明らかとなったのは、以下の4点である。

高年層世代の場合には、特に婚姻を通じて就農した場合には、農業に対する知識や経験が不足していること等から、就農当初から農業生産に対するモチベーションを有しているケースは少ないと考えられる。その一方で、今回調査した事例の女性たちは、農業に対する意欲や関心が高く、自身の選択による活動が多く見られた。つまり、高年層世代に概してみられている婚姻を契機とした受動的な理由による就農ではなく、壮年前期世代の女性農業者の場合には、主体的な選択による就農という側面が強くなっていると思われる。職としての農業に対する肯定感が顕著になっている。

女性自身が長所を認識し、それを活かす方向に向かうことで、積極的に農業経営内部で役割分担を行うようになってきている。ただし、例えば、加工や販売などについては、女性の労働を固定化し、固定的な性別役割分担と意識構造が変化していない可能性もあることから、今後も注意を払う必要があると考えられる。

農業経営内部で女性をパートナー候補として配偶者や家族が早期から認識している。その背景には、6次産業化に代表されるような多角化が進展していることで、カバーしなければならない領域が従来以上に拡大していることから、パートナーとしての女性の視点を有効活用していくことが求められていることが明らかになった。

市町村レベルや県レベルでの同じような意識を持つ女性農業者や支援者となりうる異業者とのネットワーク構築を進めている。その際、農業経営内部での役割分担状況にも応じてネットワークの内容を選択している。

### (3) 雇用就農女性のキャリア形成や就業意識

上記の(2)との比較も念頭に置き、農業法人に就農した女性のキャリア形成や就業意識について、ヒアリング調査を行い、以下の点が明らかになった。

農業法人に就農している若年層女性は、生産に対して強い意識を持っており、それに答えてくれる環境としてそれぞれの職場を捉えている。これらの点から、自己実現や自己承認欲求を満たせる場として農業法人を認識している。特に、調査対象の若年層女性たちは、生産物に対する消費者の高評価がモチベーションに繋がっていた。また、性別を問わずに仕事を任せられることも雇用就農女

性によって、就業における重要な動機付けとなっていた。

若年層女性を雇用する上での課題としては、女性に対するワークライフバランスを含めた多様なキャリアパスの提示があげられる。起業したいと考えているが断念した女性の事例でも見られたように、雇用就農している女性の場合も、結婚・出産・子育て等のライフイベントにどのように対応していけるかが課題となる。

### (4) 若年層農村女性に対する行政の支援

若年層農村女性への行政の支援策の1つにネットワーク組織への支援がある。群馬県での次世代女性リーダー育成支援として取り組まれているネットワーク組織の支援に関して、ヒアリング調査を実施し、以下の点が明らかとなった。

調査事例では、次世代女性リーダー育成を目的として、若手女性農業者を対象としたセミナーを開催し、その実績を積み重ねて、ネットワーク組織の形成につなげていき、ネットワーク活動として、ブランド化にも取り組むようになった。活動を通じて、女性のエンパワメントにも寄与しており、6次産業化への取り組み、農業女子プロジェクトや県の農業塾への参加等、活動の幅を広げることに寄与している。若年層女性農業者の育成に関して、初期の段階には、同世代との交流が重要であることが示唆された。また、高年層女性における生活改善グループ等での学習活動等に代替するものとして、ネットワーク組織が機能していることも示唆された。

特に若い世代では、近隣に同世代の女性農業者が存在することがあまり多くないことから、女性農業者同士の仲介役としての普及指導員の役割は大きいといえる。また、活動に対する家族の理解を得る上でも、普及指導員の役割はいまなお大きいと考えられ、この点は、高年層女性の場合と類似している点が見られた。ただし、若年層の女性農業者に対する支援状況は、各県の取組状況に差があると考えられ、今後の研究課題として残されている。

### (5) 農村女性起業に関する日独比較

ドイツ・ニーダーザクセン州を事例として、農村女性起業に関する調査を実施した。調査対象事例は、カフェ、レストラン、農家民宿である。ドイツにおける農村女性起業の実態、起業活動に取り組む経緯、原料調達の方法、地域との関係等に関して、知見を得ることができ、日本の実態との比較を行った。ドイツにおける農村女性起業等に関する現地調査に基づく成果の整理は現在行っており、未発表の部分が多いが、今後、論文等で研究成果を発表していく予定である。

### [参考文献]

西山末真(2012)「地域再生のための農村女性起業の役割と課題 - 高知県四万十町旧十和村『おかみさん市』を事例として - 」、『農村

社会を組みかえる女性たち』、農文協、pp.145  
~180

澤野久美(2012)『社会的企業をめざす農村女性たち』、筑波書房

澤野久美(2014)「農村女性起業研究の動向と展望」、『農業経済研究』86(1)、pp.27-37

市田知子(2011)「農家女性の『農業離れ』に歯止めかかるか」、『AFC フォーラム』59(9)、pp.3-6.

大内雅利・原珠里(2012)「ジェンダー関係を組みかえるということ - 農村社会の現状と課題 - 」、『農村社会を組みかえる女性たち』農文協、pp.209-228.

小田切徳美(2014)「移住者による『なりわい』の意味と意義」、『移住者の地域起業による農村再生』、筑波書房、pp.59-62

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

澤野久美・澤田守(2018)、「農業法人における従業員の動機付け方策の特徴と課題 - 若年層女性従業員への取り組みに着目して - 」、『農村生活研究』154号、pp.2-11.(査読有)

澤野久美(2017)、「若年層女性農業者のキャリア形成とネットワーク」、『農業および園芸』92(7)、pp.590-596.(査読無)

澤野久美・川手督也(2016)、「壮年前期世代の女性農業者のキャリア形成プロセスの実態とその特徴」、『食品経済研究』44、pp.53-67.(査読有)

〔学会発表〕(計2件)

澤野久美・澤田守(2017)、「雇用型農業法人における人材育成の特徴と課題 - 幹部従業員育成に向けた取り組みに着目して - 」、『平成29年度日本農業経営学会研究大会(日本農業経営学会)』

澤野久美・澤田守(2016)、「雇用型農業法人における動機付け方策の特徴と課題 - 若年層女性従業員への取り組みを中心として - 」、『第64回日本農村生活研究大会(日本農村生活学会)』

〔図書〕(計1件)

中村貴子・澤野久美(2018)、「女性による六次産業化と地域活性化」、『戦後日本の食料・農業・農村編集委員会編(編集担当:高橋信正)『戦後日本の食料・農業・農村 第8巻 食料・農業・農村の六次産業化』、一般財団法人農林統計協会、pp.255-272、総ページ数544ページ

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

澤野 久美 (SAWANO, Kumi)

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構・中央農業研究センター・研究員

研究者番号:10445851